

小児期からの健康増進対策に関する研究
(小児期からの成人病予防に関する研究)

竹内 宏一、中村 留美子
浜松医科大

研究要旨 静岡県 I 市において、1993 年、1994 年の小学 5 年生時およびその 3 年後に生活習慣病予防健診を受け、結果の得られた者小児の 3 年間での変化を調査した。肥満度、血圧、血清脂質値全てにおいて、有意な相関がみられた。総コレステロール値 200mg/dl 以上の者の割合が、男では 3 年間で減少していたが、女では増加していた。

A. 研究目的

小児期からの肥満、高脂血症者の増加予防を目的とし、まず自然経過を把握するため、体格・血圧・血清脂質値を小学 5 年生から中学 2 年生にかけて調査した。生活習慣病予防健診を受け、結果の得られた

B. 研究方法

1993 年および 1994 年における静岡県 I 市内の全小学 5 年生 2217 名 (男 1126 名、女 1091 名) を対象とし、小学 5 年時と中学 2 年

時に受けた健診結果 (身長、体重、血圧、血清脂質値) のトラッキングを検討した。

C. 結果と考察

対象とした児童 2217 名の内、小学 5 年、中学 2 年両時点の検査結果の得られた 1641 名 (男 825 名、女 816 名) について分析した。表 1 に小学 5 年から中学 2 年にかけての肥満度・血圧・血清脂質値 (TC、HDL-C、AI) の単相関係数を男女別に示した。男女とも、肥満度が 0.8~0.9 と最も強い相関がみられた。表 2 に小学 5 年生、中学 2 年生におけるそれぞれの異常者の出現頻度を示した。男女とも、肥満児の頻度は、小学 5 年から中学 2 年にかけて大きな変化はみられなかった。血清脂質値は男では異常者が全体で 3 年後に減少していたが、女では高 TC の者の頻度が増加しており、今後生活習慣等との関連を検討していく必要がある。

D. 結論

小学 5 年生から中学 2 年生にかけて、肥満度のトラッキングが最も強く、血清脂質値、血圧でもトラッキングがみられた。女で TC200mg/dl 以上の者の割合が小学 5 年時より中学 2 年時の方が多くなっていた。

表1. 小学5年生から中学2年生の
肥満度・血圧・血清脂質値の相関

	男	女
肥満度	0.87 **	0.82 **
収縮期血圧	0.43 **	0.41 **
拡張期血圧	0.35 **	0.38 **
TC	0.72 **	0.73 **
HDL-C	0.69 **	0.63 **
AI	0.73 **	0.71 **

**p<0.01

表2 肥満・血清脂質値異常者の出現頻度
人数 (%)

	男		女	
	小5	中2	小5	中2
肥満度 $\geq 20\%$	89(10.8)	82(9.9)	89(10.9)	78(9.6)
TC $\geq 200\text{mg/dl}$	103(12.5)	82(9.9)	118(14.5)	175(21.4)
HDL-C $< 40\text{mg/dl}$	20(2.4)	17(2.1)	32(3.9)	14(1.7)
AI ≥ 3.0	43(5.2)	21(2.5)	62(7.6)	36(4.2)

E. 研究発表

1 論文発表

甲田勝康, 中村晴信, 他. 総コレステロールが高値を示す小学 5 年生の生活および食習慣—肥満児との比較—. 小児保健研究 1998 ; 57 : 785-790

中村留美子, 戸川可奈子, 他. 同一質問に対する児童本人と保護者の回答の相違—生活習慣と自覚症状—. 東海学校保健 1998 ; 22 : 7-11

2 学会発表

中村留美子, 他. 小学 5 年生における成人病予防健診結果と生活習慣との関連 (第一報)—肥満を中心として—. 日本公衆衛生 1996 ; 43 : 380

戸川可奈子, 他. 小学 5 年生における成人病予防健診結果と生活習慣との関連 (第一報)—コレステロール値を中心として—. 日本公衆衛生 1996 ; 43 : 381



研究要旨 静岡県 1 市において、1993 年、1994 年の小学 5 年生時およびその 3 年後に生活習慣病予防健診を受け、結果の得られた者小児の 3 年間での変化を調査した。肥満度、血圧、血清脂質値全てにおいて、有意な相関がみられた。総コレステロール値 200 mg/dl 以上の者の割合が、男では 3 年間で減少していたが、女では増加していた。